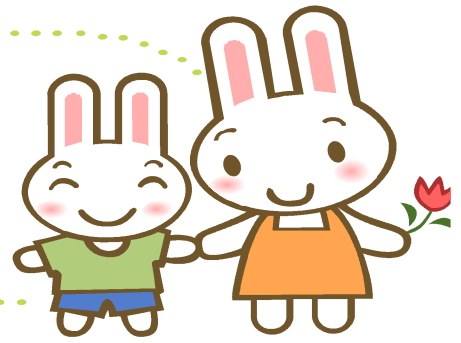




ぐんま 幼児教育センターだより 第23号



「少子化」の流れを止める

群馬県総合教育センター
所長 小笠原 祐治

私は幼児期に、両親をはじめとする周囲の人たちから非常に大切なものをもらったような気がします。二人兄弟で、兄とは6歳離れていたもので、両親から非常に大切にされて育ちました。叱られた記憶がほとんどありません。さらに、近所に小さい子がいなかったもので、近所中から大切にされた記憶もあります。1年だけ通った保育園でも大切にしてもらいました。「過保護」と言ってもよいと思います。



しかし、そのような幼児期を過ごす中で、周囲の人たちは自分に善意をもって接してくれるという感覚や、まわりの世界は自分に味方してくれるという感覚を身につけてのびのびと育ったような気がします。そして、このような人間や世界への信頼感、言い換えれば、自己肯定感を育むことが幼児期には最も大切なのではないかと考えています。

「豊かな時間の中で、豊かに学び、ともに生きていることに喜びを感じる子」を育てるとするのが、群馬県の幼児教育の基本計画である『ぐんま幼児プラン』の目標ですが、同じことを言っているように思います。

本年4月からは、いわゆる「子ども子育て関連3法」の施行により、「子ども子育て支援新制度」が始まり、質の高い幼児期の教育と保育を総合的に提供することや、子育てをさまざまな形で支援すること等が求められています。

総合教育センターとしても、新制度の趣旨に則り、教育や保育にあたる先生方に参加してよかったと思ってもらえる研修を実施すること、「子ども教育相談室」を窓口として教育・子育てに関する相談にきめ細かく対応すること、子育ての支援者に対し理解を深めネットワークを広げる講演会を実施すること、保育アドバイザーを派遣して教職員や保護者を支援すること等、さまざまな取組を充実させていきます。

現在の日本にとっては、「少子化」の流れを止めることが最も大きな課題だと思います。このままの状況が続けば、国の存立さえ危ぶまれます。そのような認識に立って関係機関は積極的に対応していかなければならないと考えています。

幼児教育センター 保育アドバイザーについて

幼児教育や家庭教育を支援するため、幼児教育センターでは、幼稚園や保育所、認定子ども園、子育て中の保護者等の研修や講演会に「保育アドバイザー」を派遣しています。

Q 保育アドバイザーってどんな人たちのの？

A 保育や教育の専門家で、経験、知識とも豊富です。

Q 内容はどのようなもの？

A 保育や子育てなど全般について、講話をしたり、相談にのったりします。

講話等の内容

保護者向け	教職員向け
「子どもの生活リズムと発達」 「子どもの意欲を育てる言葉がけ」 「親子のふれ合い遊び」 「小学校生活のスタートにあたって」 「子どものほめ方・叱り方」 「早寝・早起き・朝ご飯」	「遊びを深めるための幼児理解と援助の在り方」 「保育士（教師）と保護者の関係づくり」 「幼小連携・接続について」 「気になる子どもの理解と援助」 「幼児の見取りと発達の理解」 「幼児期にふさわしい環境の構成と援助」
など	など

Q 保育アドバイザーを派遣してもらうのに費用がかかるの？

A 無料です。
(ただし、原則として、2年連続での無料派遣はできません。)



Q 保育アドバイザーの派遣手続きはどうすればいいの？

A 以下の流れで申請をしてください。

- ①電話で、希望の日時や内容、講師などを御相談ください。
- ②御要望に沿った講師が決まりましたら、派遣依頼書をFAX又はメールで提出してください。
- ③保育アドバイザー派遣が終了しましたら、実施報告書をFAX又はメールで提出してください。

※「派遣依頼書」「実施報告書」は幼児教育センターのWebページよりダウンロードできます。

連絡先

群馬県総合教育センター 幼児教育センター

TEL 0270-26-9203

FAX 0270-26-9222

E-mail youji-edu@gsn.ed.jp

http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=74



平成27年度 保育アドバイザー

今年度の保育アドバイザーは次の12名です。

氏名	経歴等
田子 文子	元明和短期大学教授、公立幼稚園長・相談員経験者
森 静子	関東短期大学教授、私立保育園教諭経験者
井上 暁子	明和短期大学准教授、障害児施設の指導員等経験者
今井寿美枝	チャイルドハウスゆうゆう施設長、レクリエーションコーディネーター
布川 友世	保育園保育士・施設長経験者、明和短期大学講師
高橋恵津子	公立幼稚園長経験者、明和短期大学非常勤講師
八重樫 節子	東京福祉大学講師、養護教諭経験者
山西 加織	高崎健康福祉大学講師
安田 淑美	元群馬県発達障害者支援センター所長、臨床心理士
仁井田千寿	大泉保育福祉専門学校講師、キッズ・ジュニアエアロビック指導員
武藤久美子	小学校教諭経験者
井上 幸恵	小学校教諭経験者



平成27年度 幼児教育センターより

群馬県総合教育センター 幼児教育センターは平成19年度に開所し、本年度で9年目に入りました。

子ども・子育て支援新制度の本格実施に伴い、国全体が幼児教育の重要性に目を向けつつある『今』をチャンスと捉え、幼児教育に携わる方々の研修等を通し、幼児教育の質の向上を日々目指しています。

今年度も3名で力を合わせ、幼児教育センター各種事業に取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

平成27年度 幼児教育センター職員(主な担当業務)

職	氏名	主な担当業務
センター長	都丸 千寿子	係内業務総括・関係各所連絡調整・保育アドバイザー派遣 等
指導主事	鈴木 貴子	子育ての支援者研修会・5年研修・10年目研修・幼児教育研修講座・気になる幼児の保育研修講座 等
指導主事	佐藤 淳	夕やけ保育研修会・新採用研修・3年目研修・新任幼稚園長等研修・これからの幼児教育を考える 等

よろしくお願いいたします

幼児期の運動遊びに関する調査研究

近年、幼児の運動能力の低下や、疲れやすい子どもやストレスを抱えた子どもの増加などが指摘されています。文部科学省では、平成24年3月に幼児期における運動の在り方についての「幼児期運動指針」を公表し、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力等を培うことの重要性や方向性を示しました。

幼児期運動指針

平成24年3月 文部科学省

幼児は様々な遊びを中心に、毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切です！

幼児期における運動については、適切に構成された環境の下で、幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に、体を動かすことを通して、生涯にわたって心身ともに健康的に生きるための基盤を培うことが大切です。

そこで、次の3点がポイントです。

- ① 多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること
- ② 楽しく体を動かす時間を確保すること
- ③ 発達の特性に合った遊びを提供すること



幼児期運動指針
普及用パンフレット



幼児期運動指針
ガイドブック

近年の幼児の実態や国の指針を受けて、群馬県総合教育センターでは、平成26年度に各園所における運動遊びに関する現状を把握するために、県内284園所の協力を得て「幼児期における運動遊びに関する調査」を実施しました。この調査で明らかになったことは次のとおりです。

<p>毎日合計60分以上楽しく体を動かすことを意識して実践している園の割合は・・・</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: red;">38%</p> <p>○ 実践できない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行事などで時間が取れない。 ・ 1日60分は困難だと思う。 ・ 室内遊びが多いので。 	<p>日常の運動遊びに取り組む幼児を見て、課題として感じることは・・・</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em; color: red;">① いろいろな動きを経験していない</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em; color: red;">② 体の操作が未熟</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em; color: red;">③ 体力の低い幼児が多い</p>	<p>日常生活や遊びの中で行う頻度が少ない動きは・・・</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em; color: red;">①はう ②よける ③回る</p> <p>○ 実践できない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道具や場所がない ・ 保育者の意識不足 ・ 取り入れ方が難しい
<p>「毎日合計60分」は1日の積算時間であり大体の目安ですので、まとまった時間として確保する必要はありません。</p> <p>すき間の時間や日常生活の中に運動遊びや身体活動を取り入れましょう！</p>	<p>意識していないと幼児が経験する動きは、偏ってしまいがちです。</p> <p>そこで、動きの多様性と動きの洗練化という2つの視点を大切にして多様な動きの経験をさせましょう！</p>	<p>限られた場所や物の中で、幼児が自発的に活動できるような工夫を心がけましょう。</p> <p>また、研修会等で、保育者のスキルアップを図ったり、参加者と情報交換したりしましょう！</p>

この調査結果を受けて、幼児教育センターでは、幼児期の運動遊びに関する講座や研修会を開催します。この機会にぜひご参加下さい。

夕やけ保育研修会		テーマ「乳幼児期に必要な運動遊び」	
9月 2日 (水)	15:00~17:00	みなかみ町立にいはるこども園	高崎健康福祉大学 講師 山西 加織 氏 幼児教育センター 指導主事
9月 9日 (水)	15:00~17:00	渋川市こもち社会体育館	
11月 27日 (金)	15:00~17:00	邑楽町体育館	
幼児教育研修講座 < I コース > 「幼児の運動発達と運動遊びの指導」			
8月 7日 (金)	9:00~12:15	群馬県総合教育センター	元立正大学教授 山西 哲郎 氏